

園長通信

(令和7年度3月号)

幼稚園型認定こども園高槻双葉幼稚園
園長 岡部 祐輝

【年度末を迎えて】

早いもので3月となり、各学年1年間の終わりの時期となりました。本年度も園へのご理解、ご協力を賜り、誠にありがとうございました。

子どもたちは、様々な思いを抱いているかと思いますが、なんとなく次の学年や進学に向けて、楽しみ、期待という意味合いでのドキドキと、「大丈夫かな」という不安を含むドキドキが入り交ざっている時期でもあり、以下の姿が見られることもあります。

- ・甘える
- ・乱暴な言葉を使用する
- ・物事や行為に執着する
- ・消去（破壊）しようとする。またそれにつながる言葉を発する

上記はこのような様々な思いを抱える時期や、変化が生じる前後に見られる行動・言動ともいわれています。（理論的背景：フロイト・エリクソン「発達理論」/ボウルヴィ「愛着理論」など）

このような時期に、「本人の焦りを加速させる対応」や「自立を早急に促す対応」などではなく、

- ・受容 : ~だったんだね。とまず聞く
- ・切り返す: ~だったんだね。でも~したらいいんじゃない?
- ・リフレーミング: 肯定的な言葉への言い換え
- ・言語と非言語を一致させて対応
- ・過程や努力を焦点化・具体化し認める

などの対応を私たち大人が大切にし、次の一步に進んでいくエネルギーや思いを蓄えていければと思います。

【未来に向かう子どもたちに伝えたい思い】

子どもたちはそれぞれ進学・進級に向け毎日をお過ごししているところでありますが、私はこのような節目や年度の終わりに際して、改めて子どもたちに伝えたい思い、言葉として以下のようなことを考えています。

●未来は自分で切り開けるということ

私もこれまで学校教育の中で例えば「努力すれば夢は叶う」、「話し合えば分かる」など、色々な「教え」を聞いてきました。また私自身も教師としてそのような「教え」を伝えたことはあったと思います。

昨今、社会情勢や価値観が大きく変化し、これまでの当たり前が通用しない、機能しないということは数多くあると思います。またそれらともリンクするかもしれませんが、「努力しても届かないことはある」、「話しても分かり合えず争いや分断、断絶を生む」ということも、身近な生活、国際・国内情勢を見ても存在していることもまた事実です。

しかし、だからといって、「何をしても無駄」とはなりません。小さな一歩が重なり合うことで街やコミュニティが動き出すこと、もっと身近な例ですと、「自分がした行為が誰かの笑顔を作り出すということ」などは、少なからず経験しています。また子どもたちは日々の保育の中で「自ら遊びを作り出す」、「ないものは自分及び仲間と工夫し、作り出すこと」など、自分の思いや考えをもとに行動し、変化を作り出してきているということを経験的に学んできています。このような経験が学校→社会とスケールが広がっていく中で「**未来は自分で切り開けるんだ**」という感覚につながってほしいと願っています。

●「運がいいこと」はたまたまなのか？

生きていく中で、だれしも様々な人と出会いますが、「あの人はいつも運がいいよね」という方と出会うことがあられると思います。私はそのような時に、果たして本当に「たまたま運がいい」で片づけていいのかと考えることがあります。

もちろん様々なケースがあるので一概に絶対そうだ！とは言いきれませんが、「運がいい」とされる方々を見ると、日ごろの行動にヒントが隠れていることが多くあります。私が知り限りでは、まずいわゆる「**ポジティブ思考**」ということはそのひとつかと思います。

「あーあ、今日は雨だから外遊びできないわ」という思考から、

「雨が降っているけれど、～を工夫したら外遊びいけるね」というような発想の転換、また前述したリフレーミング的に考えられる思考です。

次に、「**周囲への感謝にあふれている**」ということも大切かと考えます。「昨日はお世話になりました」、「この前教えてくださったこと、試したらうまくいきました！」、「この前ご依頼していたこと、早速して下さったんですね！」など、年齢、立場、関係性に関係なく、人と人とのコミュニケーションを丁寧にされている方も、ポジティブなことがたくさん舞い込んでいることを数多く見てきました。

そして、「**信念を持つ・懸命であること**」も大切な要素と考えます。いわゆる「熱く」思いを持つということは、行動する原動力となりますし、折れそうなときに踏ん張る力ともなります。

「夢や希望を持つこと」は、大人になるにつれて簡単に語れなくなっていくこともあると思います。しかし、よく考えると、「夢が逃げる」のではなく、様々な経験をしていろいろなことを知った結果、私たちが「夢から遠ざけた思考・行動をしてしまうことがある」ということも少なくないかと思います。子どもたちには、「夢や目標を持つこと」だけではなく、小さな一歩を描き、その一つ一つを超えていったときに感じる、喜びややりがいなどとともに、「前に進む」、「自分が変化していく」ことの喜びを感じられるようになってほ

しいと願います。また、「**運はがむしゃらに前に進む人に味方するのではないか**」と思うこととも、これまでありました。無目的にはないですが、冷静に丁寧、誠実に……。夢や目標に向けて進んでいきたいと思
います。

子どもたちが未来に向かい、様々な経験や言葉、人と出会い、自分の思いを形にしていける生活が、これか
らも広がっていくよう、年度末の生活を丁寧に過ごしていきたいと思います。年度末までわずかとなりました
が、どうぞよろしくお願いいたします。